

出かけて
みました

今、あのギリシヤを

150キロのウォーキング

雨宮 武（会員）

●健脚は十和田湖より起り

毎年7月の「十和田湖ウォーク」は38年の歴史ある全国的な大会。湖畔と山腹の起伏50kmを歩くのは厳しいが、全国から強者が集まることで知られています。

この大会に、10年前横浜の方

に誘われ初参加して以来、仲間ができ、風光を楽しんでいます。スタートは朝5時、ゴールは午後3時。10時間で漸く完歩です。この大会の主催者が八戸市にある「ウォーキングクラブMTC21」でした。

クラブの活動は活発で、中国

魅力を感じ、神奈川に住む私ですが、早速入会しました。医師から度々「歩く勧め」を受けたことも背中を押しました。

●欧州の宝、ローマ・アテネへ

かくて2007年には伊・ナポリ・ローマ200km（5日間）、2013年には伊・マテラーブリンディシュ160km（5日間）に参加し大いに満足しました。

そして今回（15年秋）はギリシャのパトラスーアテネ150kmの旅です。

●あの財政危機下のギリシヤ、老人パワーが力強く踏み歩く参加者は15名（内女性4名）。

最高齢81歳、元保健師さんも完全踏破。正に老人パワーの鑑。

この旅の幹事は地元八戸市のジャーナリストOB、広い視野の方で旅の計画は周到でした。

特に、結婚してアテネ在住50年の日本人夫人（大阪出身）とご主人を名ガイドとして依頼できたこと、土地勘のある専用バス運転手を確保できたこと、好天にも恵まれ、旅行費も割安、一同にとって楽しい18日間となりました。

今回延べ16日のうちウォーキングに5日間当て、その前後が世界遺産7か所の観光でした。

●青き地中海を左にして、アテネへ

ウォーキングは、6時起床、7時朝食、8時出発で4時頃ゴール。

コースは地中海沿いの南欧の景観美しい街道を進むが、うれしいことに交通量少なく、空あくまで青く、絶好の歩行日和続きでした。15人が一列となり、道路脇を整然と歩き、先頭と最



山東省から始まり、8次にわたりシルクロードの要路2600kmを踏破してきた実績もあり、こんなウォーキングもあるのかと大いに



パルテノン神殿

後尾にリーダーとサブリーダーが付き、安全と体調を常に確認します。

トイレは1時間目安で、沿道のカフェを利用し、昼食もカフェでとり、ゴール後は、ゴール地点近くに選定されたホテルにバスで行き入浴、洗濯、そして夕食はできる限り土地のレストランを利用したのも良かったと思います。

ウォーキング中、覚えたての

ギリシャ語「カリメーラ」（おはよう）を行き交う人に発し、笑顔の交換をしました。女性には愛想が良く、男性も挨拶を返してくれました。心に響く和やかな一瞬です。

ゴールはアテネのパルテノン神殿を眺められる丘陵フィロポリスでした。たまたま自転車道に登ってきた地元青年ジョージと記念写真をとったのが印象に残ります。

遠望したこのパルテノン神殿には、その数日後に訪れました。が、この国の危機を忘れる程の大勢の内外観光客が押しかけていました。近くのパウロ由来の岩周辺も大変な混雑でした。

●ワインはエーゲ海から八戸へ
八戸の商社がワインを輸入するクレタ島のワイナリーが経営するレストランで、八戸からの見学客ということで、思い出深い歓迎を受けました。試飲もさる事ながら土蔵風の郷土色あふれるレストランで

の皿一杯の料理と女子中学生6人の民族色溢れる踊りの歓迎でした。感激一杯。

●ギリシャの庶民は強く生きて

クレタ島Ⅱミノア文明は、クノックス宮殿等々、古代文明が身近な世界でした。

ここも観光客が溢れ賑わい、現在のこのギリシャの経済財政危機は、アテネの「賢人」政治家たちの問題ではないか、の思いでした。

人口1100万、アテネに400万が集中、面積は日本の3分の1のギリシャですが、現実には高失業、マイナス成長で、新築ビルも少ない、低迷状態です。しかし通りかかる町や村で接した人々からは、未来に向かう明るい印象を感じるわけです。

西欧文明の起源Ⅱヘレニズム文明の現地訪問と、1日30kmウォーキングを取り合わせた創意



エピダヴロス遺跡の古代劇場

性あるこの旅は、私にとって本当に有意義な旅であったと思っています。

●感動の世界的遺産を記します
エピダヴロス遺跡の古代劇場、ミケーネ遺跡、ミストラ遺跡、オリンピア遺跡、アテネの考古学博物館、パルテノン神殿、イラクリオン博物館、クノックス宮殿、デルフィ遺跡、メテオラ遺跡